

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
生理学 Physiology		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(栄養士資格必修)	栄養士養成課程限定
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
栄養士養成課程に係る科目 (栄養士資格指定科目)				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
栄養士養成課程に係る科目 (栄養士資格指定科目)				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
本庄 広大	非常勤講師室	授業終了後		授業中に指示します
授業の概要				
春期で学習した各細胞、組織、器官や臓器の復習をしながら働きを重点に覚える。人間が呼吸、摂食、睡眠、労働、休養、生殖などを営んで種族を維持していく行く仕組みを学習し、各器官が互いに協力して機能しながら体を維持していくことを理解する。一部の組織、器官、臓器や協力体制が具合が悪くなることで病気になる理由を学習する。				
授業の目標				
①人体を構成する細胞、組織、器官、臓器などの働き、食品や栄養素との関連を認識することができるようにする。 ②地上の環境で種族を維持するための感染防御、呼吸、吸収と排泄、生殖などの機構を分類することができるようにする。 ③各器官系が中枢神経系によって統合されて個体が維持されていることの仕組みを認識することができるようにする。				
授業の方法				
授業は講義。学生は積極的に講義に参加するよう努力すること。				
学習の成果 (学習成果)				
①栄養士資格を取得するうえで必要となる「生理学」に係る内容を具体的に解説することができる。 ②身体を構成する細胞、組織、器官、臓器などの名称や機能を正確に解説することができる。 ③感染防御、呼吸、吸収と排泄、生殖などの機構や各器官の機能について解説することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	授業の概要説明。			
第2回目	細胞の働きについて学習する。			
第3回目	循環器系の働きについて学習する。			
第4回目	呼吸器系の働きについて学習する。			
第5回目	消化器系の働きについて学習する。			
第6回目	消化器系の働きについて学習する。			

第7回目	泌尿器系の働きについて学習する。
第8回目	生殖器系の働きについて学習する。
第9回目	神経系の働きについて学習する。
第10回目	神経系の働きについて学習する。
第11回目	内分泌系の働きについて学習する。
第12回目	血液成分の働きについて学習する。
第13回目	免疫系の働きについて学習する。
第14回目	第2回目から13回目のまとめ。試験に向けた補足説明。
第15回目	第2回目から13回目のまとめ。試験に向けた補足説明。
事前・事後学習	教科書を読み、補助資料に書き込む。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	①講義の目的・内容をしっかり理解し、積極的に参加する(S=90評価)。②メモやプリントを積極的に利用する(A=80評価)。③集中して講義に参加しないものは評価が低い(場合によりD評価となる可能性)。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験	80%	①全出題項目が理解できている(S=90評価)。②重要な出題項目が理解できている(A=80評価)。③基本的な問題が理解できている(B=70評価、又はC=60評価)。
発表内容(態度含む)		
その他		

教科書と参考図書

- 教科書 【管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト 第4版】 岩堀修明 文光堂
- 補助資料 【ぬりえで学ぶヒトのからだ】 佐藤達夫 安田康晴 パーソン書房

履修上の留意点・ルール

時間の関係で授業では触れなかった疑問を自分で調べて、それでも分からないところを先生に質問すること。